

報告事項エ

平成26年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要
について

平成26年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について、別紙のとおり報告します。

平成27年2月9日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成26年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼 社会教育委員会議の概要について

社会教育課

- 1 日 時 平成27年2月3日（火）午後3時から午後5時まで
- 2 場 所 白兔会館（鳥取市末広温泉町）
- 3 出席者 委員10名（2名欠席）、事務局10名（次長、小中学校課、社会教育課）
- 4 会長の選任 会長：近藤剛委員、副会長：徳吉雅人委員

5 会議の概要

（1）とっとり県民カレッジのあり方及び今後の生涯学習推進施策について（諮問）

諮問理由及び諮問事項に係る生涯学習推進施策の現状等について説明を行い、各委員から意見をいただいた。次回、これからの生涯学習のあり方について審議を進める。

[諮問事項]

とっとり県民カレッジのあり方及び今後の生涯学習推進施策について

- 1 生涯学習施策における行政（県）の役割について
- 2 とっとり県民カレッジの方向性について

[委員からの主な意見（全体会での意見を含む）]

- ・情報発信、コーディネート機能はますます重要になっている。検討にあたっては、「地域の魅力、文化資源の顕在化」、「学び合うこと」、「次代につなげること」の視点が大切である。
- ・参加者のモチベーションを如何に高めるかを考えていくこと。若い世代には、単なる座学ではなく、自分が学んだことを、次に発信できるような仕組みがあるとよい。
- ・参加者が主体的に関わっていくことができる参加型の学習に移行することが必要である。
- ・県は市町村の舵取り役を担うべき。市町村講座がどうあるべきか、公民館でどのようなことをするべきか基本的方向を示すこと。
- ・これからの時代は「自分のためだけの教養」にはあまり意味がない。学んだことを活かしていく場、仕組みが必要である。
- ・学びたい高齢者は増えていく。県の役割として、単に連携講座を増やせばよいというものではない。

（2）平成27年度社会教育関係団体への補助金について

- ・来年度の青少年団体・成人団体等への助成について説明し、了承を得た。

(3) 意見交換

①地域課題と社会教育について

現状と課題の選定、協議の進め方について説明を行い、各委員会から意見をいただいた。次回以降も、情報共有や共通理解を深め、地域課題の整理を進める。

[委員からの主な意見]

- ・地域課題と社会教育が取り組んでいることに乖離があるように感じている。おのおのが地域で役割を担える方向で検討してほしい。
- ・幼児期から小学校、中学校、高校、PTA、一般、高齢者の段階ごとに、活用できる社会教育資源を整理してみてもどうか。
- ・孤立化が気になる家庭もあり、社会教育でどう支援できるか考えてはどうか。
- ・公民館活動に来る人は限定的。サービスする側（ボランティア参加）には集まらない。働く世代は誰もが忙しいが、地域社会に参加するために企業（雇用）側からも関わることもできるとよい。

(4) 報告事項

①平成27年度社会教育関係の主な事業について

- ・社会教育関係の事業、新規事業「特色ある小中9年教育支援事業」について説明した。

②学校・家庭・地域の連携による教育支援活動等に関する施策の総合的なあり方を検討する委員会の兼務について

- ・本分科会委員が、当該施策の推進委員会委員を兼務することについて説明し、了解を得た。

<参考>今後の予定

- ・答申（又は中間報告）の時期：平成27年10月頃を予定
- ・審議の回数：今後、3回から4回を予定
(審議状況により、県内・県外視察等も予定)

出席者名簿

氏名	所属・職名等	備考
伊澤 悦子	日本ボーイスカウト鳥取連盟鳥取2団ボーイ隊長	
市橋 幸代	湯梨浜町立松崎幼稚園長	
大堀 貴士	NPO法人ハーモニーカレッジ理事長	
岡崎 誠	鳥取環境大学教授	
木村 京子	鳥取市立美保小学校長	
近藤 剛	鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授	会長
田中 朝子	鳥取県連合婦人会長	
徳吉 雅人	倉吉市明倫公民館長	副会長
中村 美香	鳥取県連合青年団長	(欠)
福井 伸一郎	倉吉市教育委員会教育長	
森岡 祐美子	株式会社山陰放送ラジオ総局放送制作部	(欠)
山本 幸子	鳥取市社会福祉審議会委員	